

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

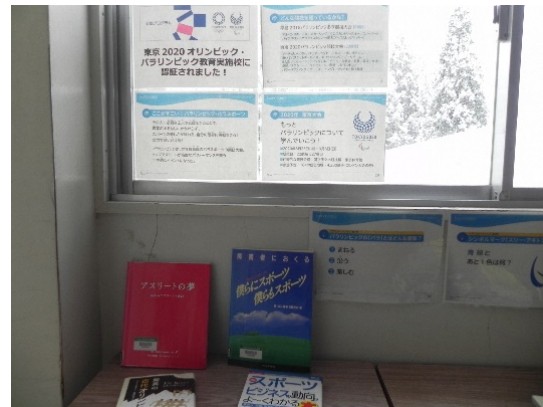
道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 府立北桑田高等学校 】

1 実践テーマ	【 I V 】
2 実施対象者	京都府立北桑田高等学校生徒・教職員 森林リサーチ科1組 1年20人・2年24人・3年24人 普通科2・3組 1年36人・2年36人・3年47人 計187人 教職員 38人 総計 225人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（保健体育、世界史） ② 行事名（ビームライフル・ビームピストル射撃） ③ その他（図書館でのオリンピック・パラリンピック関連図書展示コーナーの設置・オリンピック・パラリンピック関連クイズ展示）
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック競技種目である射撃競技（ライフル・ピストル）の日本代表選手の講演及び実技指導を通して、「スポーツの力」や豊かな「スポーツ心」を育み、スポーツ文化を広げるとともに、オリンピック種目となるビームライフル射撃を体験することで、スポーツに対する興味関心を高める。
5 取組内容	1 啓発の取組 (1) 図書館でのオリンピック・パラリンピック関連図書コーナーの設置



(2) 教室棟廊下でのオリンピック・パラリンピック関連図書コーナーの設置



(3) 教室棟廊下でのオリンピック・パラリンピック関連クイズの掲示



(4) オリンピック・パラリンピック、射撃競技に関する資料配付

- オリンピック・パラリンピック競技種目
- 「スポーツシューティング教室」(京都府ライフル射撃協会)

(5) ピョンチャンオリンピック・パラリンピックに向けた「韓国」についての図書展示



2 ライフル射撃講演・実技指導 12月14日(木)
13:30~16:30

講師 小島則子 氏
(日本選手権36回優勝、アジア大会優勝、世界選手権代表)

補助 京都ライフル射撃協会会員

(1) 本校校長によるオリンピック・パラリンピックの意義や競技種目についての講話及び講師紹介



(2) 「射撃競技について」講演および射撃競技大会のDVD視聴
講師 小島則子 氏



(3) 京都府ライフル競技協会役員によるビームライフル・ビームピストルの説明



(4) ビームライフル・ビームピストル模範演技 (小島則子氏他)



(5) 生徒・教職員による射撃体験



	<p>3 事後指導（講演会・射撃体験の感想）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビームライフルという競技を知らなくて、今回の講演で初めて知りました。意外と音がしなくて驚きました。 他の競技と違って、ハデさはないけれど、自分との戦いのような感じがして、他にはない面白さがあると感じました。 体格差とかそういう差がない競技なので、誰でもできるし、一度やってみたら好きになる人も沢山いると思うので、今回の私たちのように、この競技を沢山の人の人に知ってもらえたらいいなと思います。 ・ビームライフルが競技として存在しているのを、今回の講習で初めて知りました。実際にやってみるとライフルを止めるのが難しく、中心に当てるためには練習が必要だなと思いました。今回の講習をきっかけに、一度体験に行ってみようと思いました。 誰でも簡単に始められるので、私たちの学校から選手として大会に出場してビームライフル競技が盛り上がりた方がいいなと思いました。 ・オリンピック競技だということ知らなかったの、東京五輪の時、見てみたいと思った。見ていてとても難しそうだった。でも、実施やってみると、案外簡単でしたが、立ってやると重くて、難しかったです。 ・射撃という競技を見たのは初めてで、とても良い経験ができたと思います。スポーツには、今まであまり関心を持っていなかったけれど、運動が得意でなくても楽しめる競技であると知り、次のオリンピックは、いろいろな競技を見てみたいと思う。 ・僕はビームピストルを体験しました。手ぶれが酷く、的を狙うのはとても難しかったです。教えてくれた人に、「標準の点が的を行き来しているから狙いは悪くない。」と言われて、とても嬉しかったです。 <p>射撃が北桑田高校の部活として認められれば、他の学校にない魅力になると感じました。</p>
6 主な成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 射撃競技を通してのスポーツへの興味関心の向上 <ul style="list-style-type: none"> 性別、体格、運動能力に関係なく取り組める競技であり、実際に体験をすることで、今まで運動を苦手としていた生徒にも、取り組んでみたい、自分にもできるのではないか、という意識が生まれ、射撃競技だけでなく、スポーツに対する興味関心を高めることができた。 2 オリンピック・パラリンピック競技の意義理解や関心の向上 <ul style="list-style-type: none"> 日本代表選手の講演や模範演技、実技指導を通して、世界選手権やオリンピック・パラリンピック競技の意義を理解し、関心を高めることができた。 3 挑戦することの意義 <ul style="list-style-type: none"> 可能性に挑戦することで日本代表選手となり、世界選手権を制した小島選手の講演を通して、あきらめることなく、挑戦することで可能性が広がることに気づいた。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 京都府ライフル射撃協会の協力により、機材の全てを準備して頂くことができた。 • 講演や模範演技を見るだけでなく、京都府ライフル射撃競技協会の協力により、多くの生徒、教職員が実際にビームライフル・ビームピストル射撃を体験することができ、射撃競技だけでなく、スポーツに対する興味関心を持つことができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 体験の時間を多く設定したが、希望する全生徒に対応することが困難であった。 • 機材の設定について、専門知識が必要で、学校で準備することができなかった。 • 地域の課題である鳥獣被害に対して、狩猟免許取得につながる意識付けの役割としても考えていきたい。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • ビームライフル・ビームピストル競技を部活動として取り組めるよう器具の購入等も検討したい。 • 地域の支援学校で取り組んでいるパラリンピック競技種目の1つであるボッチャにも取り組んでいきたい。